

あすなる忌、カフェ10周年も記念

文化の拠点遺産に光

10日、高崎 高経大生と実行委が鼎談



第20回あすなる忌とc
afeの10周年に合わ
せたイベントが開かれ
る「cafeあすなる」

学生主体で運営する「ca
feあすなる」としてよみ
がえった。

cafeは高崎の街中に
人を増やすことをテーマ
に、地域密着型の店として
運営。22年からは店長と副
店長を学生が担い、地元商
店とも積極的に連携してい
る。店長の高倉麻有さん
(20は、同店のこれまでの

歩みを「お客さまの協力も
あったからこそ、文化と憩
いの場として続けることが
できた」と振り返る。

あすなる忌当日は、鼎談
などを通してその歴史に理
解を深め、同店の役割につ
いて捉え直す。実行委代表
の藤井浩さんは、市から援
助を受けて経営する学生主
体のコミュニティカフェは
珍しいと指摘。「あすなる
が多くの人に望まれて復活
した意味をよく考えて、こ
れから先の運営につなげて
ほしい」と思いを語った。

(高橋和真)

かつて音楽や詩など幅広い文化活動の拠点として親
しまれた高崎市の「名曲茶房あすなる」をしのぶ「第
20回あすなる忌」が10日、高崎経済大生が運営するc
afeあすなる(同市鞆町)で開かれる。今回はca
feの10周年も記念し、あすなる忌実行委員会と学生
が記念の集いを企画。「あすなるが遺したもの」をテ
ーマに、学生と同実行委員による鼎談を行う。

茶房は韓国生まれの詩
人、崔華国によって195

7年に同市本町に開店し
た。65年に現在地へ移転。

クラシック純音楽喫茶店と
して、演奏会「生の音楽の
夕べ」や日本を代表する詩
人による「詩の朗読の夕べ」
などを開いてきた。しかし、
喫茶店の人気低迷により82

年に閉店した。

閉店を惜しむ有志によ

り、「あすなる忌」が開催
されたのは2001年。同

店ゆかりの音楽家や詩人、
元店員らが集まり、朗読会
や講演を通して同茶房への
思いをつないできた。13年
には同市の協力もあり、空
き店舗となっていた店が、